

小興安嶺におけるナベヅル (*Grus monacha*) の繁殖行動と生態学的研究

郭 玉 民
北京林業大学

摘要；ナベヅル (*Grus monacha*) の主要な繁殖地はロシアの人跡稀な東シベリア地域とされ、わが国では1993年に黒竜江省の小興安嶺においてナベヅルの繁殖が発見、記録されたが、その後詳細な記録は見られない。わが国において繁殖するナベヅルの習性、生態についてさらに調査を進め、今後の保護活動のための資料を提供し、我々が用いた野外での撮影技術と観察記録方法を、森林湿地中におけるナベヅルの行動を近距離から連続して観察して記録し、23時間にわたるDVの記録と54巻のフィルムなどで観察したナベヅルの行動73種並びに、採食、散策徘徊、休息など様々なこれらの行動が記録された。これらナベヅルの基礎的な個体行動の意義を検討した。ナベヅルによる林間湿地における行動を見つけて追跡するのは非常に困難であった。研究途上、我々が採用したのはライン調査の経路設定、ナベヅルの繁殖、散策地域にける鳴き声の録音、録画等による記録の推進し。同時に調査地域に関係するナベヅルの教材資料を発信し、豊富な情報をすぐに当地の林業関係部署や研究者に伝えた。我々はこれを現場に迅速、確実にフィードバックすることにより、迅速確実に現場の防火塔および無線連絡係員など防火監視員の助力を得て観察を行なった。ナベヅルを発見したならば、我々は実状、実態を確認するため防火用ヘリコプター巡回の機会を得て機乗し、観察記録した。飛行高度100~150m、巡航速度150~180km/h。2004年における調査累計飛行時間3h5min、飛行距離500km。2002年における航空調査では12羽のナベヅルを記録し、2004年の地上と航空調査において合計30羽のナベヅルを記録し、3対の営巣個体を発見した。他に2対と2羽の個体を観察したが巣を見つけるに至らなかったが、保護領域で行動していることから繁殖個体と推定された。同時に繁殖に参加しない13羽の個体と不明確な3羽の個体が見られた。調査によって小興安嶺沾河流域の森林沼沢地帯はわが国のナベヅルの重要な繁殖地である。我々は2002年~2004年にかけて黒竜江省小興安嶺沾河林区におけるナベヅルの繁殖習性の研究結果を発表した。

ナベヅルが毎年4月末から5月初めに産卵し、卵数は2卵 ($n=4$)、サイズは93.4(90~98)×58.4(54~61)mm、重さ159.4(140~185)g。雌雄共同で抱卵し、期間は30日。営巣は林間或いは水辺の林縁にある湿地帯。巣の大きさは約900×900mm、内径は判然とせず、巣高は水面より130~180mm。巣の周囲の水深は120~300mm。親はミミズとオタマジャクシを雛に与える。

種間関係については記述されたハシブトガラス (*Corvus macrorhynchos*)、トビ (*Milvus migrans*)、イヌワシ (*Aquila chrysaetos*) 等はナベヅルに脅威を与えるとされ、ノスリ (*Buteo buteo*)、ハイタカ (*Accipiter nisus*)、チゴハヤブサ (*Falco subbuteo*) 等は巣の上空を飛ぶ時ナベヅルは注目して見送る。抱卵中ナベヅルはアカゲラ (*Picoides major*) が近くで行動するときも非常に不安な表情をする。近くでノロ (*Capreolus capreolus*) の鳴き声がしてもナベヅルは反応を示さない。野外直接観察法によりナベヅルの採食地における行動基準を研究し、繁殖期の採食地における各種行動の一定した時間配分を示す。繁殖期前期雌、雄は1日中(5:30~18:00)採食地で行動している